

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



第235回 定期演奏会

極彩色の音変化

話題の弦楽4重奏と
多様な邦楽器群による、


今宵は
熱き
競演を
お楽しみ
あれ!

2022/

1/19 (水)

19:00開演 (18:30開場)
豊洲シビックセンター 5階ホール

主催：特定非営利活動法人 日本音楽集団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）

後援：公益財団法人 日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

日本音楽集団HP



演出：元永 拓 / 構成：福嶋頼秀 / 舞台監督：中島 隆

The 4 Players Tokyo (=T4PT) は今、日本で一番注目されている弦楽4重奏団と紹介しても過言ではない。腕利きのメンバーは各地のオーケストラでも活躍し、時にみずみずしく、時に深く、たいへん魅力的な音楽を奏でる。

そのT4PTをプロデュースするのが藤岡幸夫マエストロ。指揮者として国内外からのオファーが絶えない中、トークコーナーへのご出演を快諾してくださいました。

そして、そのT4PTを迎えるのが我が日本音楽集団。前回の東京オリンピックの年に誕生し、様々な和楽器が一堂に会する邦楽オーケストラとして、58年間にわたり様々な活動を展開してきた。

洋楽オーケストラのDNAとも言うべきT4PTと、最多な経験値を持つ邦楽オーケストラとの初・共演。3曲の室内楽作品+2曲の大編成のための新作の、豊穣な音楽をぜひお楽しみいただけますよう！ 第235回定期演奏会 実行委員

1. 太刀花

たちばな

2008年(編曲2010年) Donald Reid Womack

ヴァイオリン: 戸澤哲夫 尺八: 元永 拓

曲のタイトルは、この作品を寄贈した尺八製作者であり演奏家である立花茂生氏のお名前から生まれた造語です。立花氏に敬意を表しタイトルを考える中で、新たな言葉を作る際に通常では組み合わせないであろう二つの単語を日本人に馴染む詩的許容を鑑み生み出しました。言葉自体は「太刀」と「花」を表し、作品自体もこの二元性、すなわち「鋭さ」「激しさ」を意味する前半と「静寂」と「優美」を意味する後半から成っています。

この作品は元々尺八二重奏(D管、A管)として書かれており、立花茂生氏と立花友子氏による演奏はCDアルバム「Breaking Heaven 破天」(Albany Records)で聴くことができます。 www.albanyrecords.com (作曲者)

2. Earth Spectrum

2013年 相澤洋正

ヴァイオリン: 遠藤香奈子 ヴィオラ: 中村洋乃理 チェロ: 矢口里菜子
尺八: 原郷 隆 三味線: 二代目 三山貢正 箏: 熊沢栄利子

この地球上には様々な生き物が共に住んでいる。対峙するのではなく、共生することを願って…

1. 「Territory」(領域)

それぞれの世界でおだやかに暮らしている。しかしこれから他を侵略する悲しい時代に入ってしまうことを予感させる音楽。

2. 「Aggression」(侵略)

自分達の領土を広げ、他を排除しようと侵略を始める。壮絶な戦いの幕開けとなる。

3. 「Symbiosis」(共生)

地球は荒地となった。それでも日は昇り、草木が芽を出し、小さな花が咲いた。それは「どんなにつらい状況でももう一度再生できる」ことをこの花が教えてくれた。もう一度共に！ (作曲者)

3. 和洋を結べ！ ～凛々しき日本の旋律たち～

委嘱初演 福嶋頼秀

I. 越天楽 II. さくら III. ていんさぐの花 IV. 八木節

弦楽四重奏: The 4 Players Tokyo 箏: あかる 潤 尺八: 原郷 隆 大賀悠司
三味線: 簗田弘大 琵琶: 久保田晶子 二十絃: 桜井智永 石井香奈 森 真理子
十七絃: 久本桂子 丸岡映美 打楽器I: 盧 慶順 打楽器II: 多田恵子

一口に「日本の旋律」と言っても、そのキャラクターは多様です。この作品では、カラーの異なる4つの旋律を選んで、弦楽4重奏と邦楽合奏12人の組み合わせならでは音楽になるように再構成し、編曲しました。1曲目の「越天楽」は雅楽の合奏曲ですが「黒田節」の原曲としても有名。尺八とヴィオラが重なるメロディーが、独特の雰囲気醸し出します。つづく「さくら」は美しくも儚い響きの日本古謡。箏のソロはもちろん、6/8拍子やフランス近代風な和音も登場して、変容してゆきます。3曲目の「ていんさぐの花」は沖縄民謡。本来は、三線をつまびいて弾き語りされることが多く、ここでもピチカートを多用しています。そして最後は「八木節」で大いに盛り上がります。実は、ヴァイオリンの戸澤氏と私は同じ群馬県出身。今回の共演を根っこでつないでいるのは、上州の空っ風で育まれた気質なのかもしれません。 (編曲者)

4.

鹿鳴新響

ろくめいしんきょう

二本の尺八とチェロ、打楽器のための

2007年 和田 薫

チェロ：矢口里菜子 尺八I(牡鹿)：田野村 聡 尺八II(牝鹿)：大賀悠司 打楽器：富田慎平

この作品は、尺八の古典本曲の名曲「鹿の遠音」を素材に、今回のコンサートのために書き下ろした新作です。

現在、邦楽器は楽器の改良と奏者の技術向上により、ピアノやフルートの如く西洋音楽を表現できますが、そこには本来伝統楽器が持つ本質的な「味」が失われていくように感じられます。やはり伝統の中にある楽器の「味」を生かすには、伝統音楽をどのように現代に料理するかを問い直さなければならぬと思案を試みたのが、この「鹿鳴新響」です。

<文化と歴史の全く違う二つの世界の音楽が共存できるのか？>

この命題を解くために「鹿の遠音」を選んだのは、この曲が尺八古典曲の中で最も知られている曲だということだけでなく、20年前に米国で初めて聴いた音楽集団の演奏がこの曲だったということに深く由来しています。日本の伝統音楽を初めて聴いたアメリカ人の反応はとても直情的で感動的なものでした。伝統を現代に生かす鍵がここにあるのではないかと、当時からずっと私の心の中に深く内在していたのです。

この作品は、今回のコンサートの演目の中でも特異な位置にあるでしょう。それは、作曲家としての新たな試みのはじまりであり、ひとつの結論でもあるからです。
(第188回定期演奏会 プログラムノートより 作曲家)

5.

カウンター・ポジション

委嘱初演 秋岸寛久

指揮：稲田 康 弦楽四重奏：The 4 Players Tokyo

笙：三浦礼美(助演) 箏：三浦元則 笛：芝 有維 尺八I：田野村 聡 尺八II：饗庭凱山

三味線：山崎千鶴子 琵琶：久保田晶子 二十絃I：熊沢栄利子 伊藤麻衣子

二十絃II：桜井智永 喜羽美帆 十七絃：久東寿子 丸岡映美 打楽器I：富田慎平 打楽器II：多田恵子

明治期、西洋文化とともに「洋楽」も急激に流入してきた影響で「邦楽」が失ってしまったものは少なくはなかったようです。しかし同時に、得たものもはかり知れません。日本音楽集団のように異なったジャンルの楽器が合奏するためには西洋合理主義の発想が欠かせないものであり、また、それが現代人の感覚とも合致しているように思います。もちろん日本音楽の特性を失ってしまえば邦楽器アンサンブルの意味がありません。例えば音階構造。邦楽器はそれぞれの楽器がそれぞれの音世界を持っています。それをないがしろにすることなく、接点を見つけることは難題でもあり、魅惑的な作業です。そして今回はその仲を取り持ってくれる柔軟な洋楽器が存在します。その弦楽四重奏独自の世界が加わって、さらにバラエティーに富んだ絢爛豪華な世界をお楽しみいただけるのではないかと考えています。
(作曲家)

日本音楽集団

1964年創立。伝統的な日本の楽器である、箏・尺八・三味線・琵琶・胡弓・笛、小鼓・太鼓などの打楽器、笙・箏などの雅楽器による和楽器オーケストラです。和楽器数十名と指揮者による大合奏は迫力満点です。現在では、定期演奏会を中心に、全国各地での公演、教育機関での音楽鑑賞会、録音・放送・映画・演劇などさまざまな分野で演奏活動を行っています。海外では、ヨーロッパ、アメリカ、ロシア、中国、東南アジア、オーストラリア等、31か国151都市で公演を実施。アイザック・スターン、ヨー・ヨー・マヤ、ゲヴァントハウス・オーケストラ、ニューヨークフィルとの共演を実現、海外でも高い評価を得ています。文化庁芸術祭大賞、第2回音楽之友社賞、レミー・マタン音楽賞、モービル音楽賞など、受賞履歴多数。

メンバー (楽器毎五十音順)

笛 あかる 潤 遠藤悠紀* 芝 有維 新保有生 孫 瀟夢 竹井 誠	大賀悠司 川俣夜山 阪口夕山 田野村 聡 原郷 隆 藤崎重康 瀬上ラファエル広志 三橋貴風 元永 拓 米澤 浩 渡辺 淳	箏 石井香奈 伊藤麻衣子 岡山亮子 久東寿子 熊沢栄利子 桜井智永	佐藤里美 島崎春美* 城ヶ崎美保 久本桂子 丸岡映美 三宅礼子 森真理子 山田明美 喜羽美帆 渡辺正子	山内利一 盧 慶順 指揮 稲田 康 田中元樹 田村拓男 苦米地英一	アートマネジメント 大西愛子* 楽器・舞台 中島 隆 名誉代表 田村拓男	永久名誉団員 長澤勝俊
箏 西原祐二 三浦元則	三味線 杵家七三 長井麻江 二代目 三山眞正 穂積大志	打楽器 白杵美智代 尾崎太一 島村聖香* 多田恵子 富田慎平*	作曲 相澤洋正 秋岸寛久 川崎絵都夫* 篠田大介* 高橋久美子 福嶋頼秀	代表 尾崎太一 副代表 米澤 浩	事務局 中山美穂子	

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したことを機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指し、ご協力をお願い申し上げます。

会費 (年会費)	個人会員	10,000円(一口以上)
	法人会員	30,000円(一口以上)

(年間3回の定期演奏会への招待状を毎回ご送付)



詳細は日本音楽集団事務局までお問い合わせ下さい。またホームページでも、お申し込み方法など詳しくご案内しております。

賛助会員 (口数・50音順)

【法人会員】日凸運送株式会社
【個人会員】山本福八
伊藤美好 / 伊藤憲夫 / 柿崎やよい / 佐藤玲子 / 高倉尚子 / 友杉 毅 / 奈良英子 / 西川浩平 / 堀 保之 / 三宅一徳 / 元永明希 / 元永美代子 / 森 繁美 (他2名)

☆印は新入団員
※印は休団中
2022年1月現在

ゲスト: THE 4 PLAYERS TOKYO ザ・フォープレイヤーズ・トウキョウ

音楽番組「エンター・ザ・ミュージック」(BSテレ東 毎週土曜8:30~) から生まれた弦楽四重奏団。

4つの異なるオーケストラのトッププレイヤー達が、指揮者藤岡幸夫氏から指名を受け集結し、2019年秋にデビュー。

これまで、全ての公演を藤岡氏がプロデュース、自ら司会進行を行い、東京の他、広島、富山、山口、姫路など、全国的に活動を広げている。



ヴァイオリン
戸澤 哲夫

東京シティ・フィルハーモニック
管弦楽団コンサートマスター

東京藝術大学を経て同大学院在学中の1995年より東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスター。これまでに、東京シティ・フィルのほか東京フィル、仙台フィル、日本センチュリー響、広島響等と共演。94年アルペリ弦楽四重奏団を結成、96年安田弦楽四重奏団に加わる。98年よりベルリンにてR.クスマウル氏のもとで研鑽を積む。2001年モルゴア・クアルテットのメンバーとなり、アリオン賞、佐川吉男音楽賞奨励賞、JXTG 音楽賞本賞を受賞。



ヴァイオリン
遠藤 香奈子

東京都交響楽団
第2ヴァイオリン 首席奏者

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部を卒業。ヴァイオリンを鷺見健彰、原田幸一郎、建部洋子、ニック・エネットに師事。第1回東京室内楽コンクール優勝。第2回大阪国際室内楽コンクール弦楽四重奏部門第2位。第5回パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクールにて最高位。現在、東京都交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者、The 4 Players Tokyo 第2ヴァイオリン奏者、横浜シンフォニエッタのシーズンメンバーを務める。アンサンブル奏者としての能力を高く評価され、室内楽から各地オーケストラの客演首席奏者まで幅広く活動している一方、ソロリサイタルや施設へのボランティア出張演奏も定期的に行い、幅広い世代と環境へのクラシック音楽の普及に意欲的に取り組んでいる。



ヴィオラ
中村 洋乃理

NHK交響楽団
ヴィオラ 次席奏者

岡山県笠岡市生まれ。愛知県立芸術大学を経て、東京藝術大学大学院研究科修士課程修了。第8回日本演奏家コンクール最高位受賞。室内楽奏者としては、Alto de Campagne、バルテンツァ五重奏団、The 4 Players Tokyoのメンバーとして活躍している。各地のオーケストラに首席奏者として客演する他、フューチャー・オーケストラ・クラシックス(旧ナガノチェンバーオーケストラ)首席奏者や、横浜シンフォニエッタシーズンメンバー、シュタール・フィルハーモニー管弦楽団のゲスト首席としても活動している。2007年から2014年まで東京フィルハーモニー交響楽団フォアシュペーラーを務めた。2015年NHK交響楽団入団。現在、次席奏者。



チェロ
矢口 里菜子

山形交響楽団
チェロ 首席奏者

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学を経て、カール・マリア・フォン・ウェーバー・ドレスデン音楽大学にて研鑽を積む。馬場省一、宮城健、山崎伸子、石坂団十郎の各氏に師事。第10回ビバホールチェロコンクール第1位。第31回霧島国際音楽祭賞。これまでにザクセン州立警察オーケストラ、山形交響楽団などと共演。在学中にカルテットを結成し、リゾナレ音楽祭他多数の演奏会に出演。小澤征爾音楽塾に参加。JT が育てるアンサンブルシリーズ、宮崎国際音楽祭などに出演。2019年、山形交響楽団 首席チェロ奏者に就任。



トークコーナー・ゲスト

藤岡幸夫

英国王立ノーザン音大指揮科卒。1994年「プロムス」にBBCフィルを指揮してデビュー以降、多くの海外オーケストラに客演。2017年にはアイルランド国立響にマラー第5交響曲で客演、聴衆総立ちの大成功を取めた。首席指揮者をつとめる関西フィルとは2021年に22年目のシー

ズンを迎える。2019年4月には東京シティフィルの首席客演指揮者に就任。司会をつとめるBSテレビ東京『エンター・ザ・ミュージック』(毎週土曜朝8:30~)は番組開始から8年目の人気番組。

公式ファンサイト <http://www.fujioka-sachio.com/>

研ぎ澄まされた箏



(株) 琴光堂
TOKYO KINKODO

TEL (03) 3792-8481 E-mail: tokyo@kinko-do.com